

小暑の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

先月の自衛隊関連の大きな行事は十九日、東京市ヶ谷台の防衛省に於いて君塚陸上幕僚長及び番匠陸幕副長の表敬訪問でした。

君塚陸幕長には平成十七年六月、健軍駐屯地での林西部方面総監表敬以来ご交誼を賜り、爾後那覇の現第十五旅団長、北熊本第八師団長等を歴任後の同二十一年に東北方面総監ご就任の折は、翌年九月仙台苦竹駐屯地にて挙行された 同総監創立五十周年記念式典」に、お招きを頂いたところです。

その半年後に所謂 「三・一一東北大震災」が生起し、当時君塚東北総監は陸海空自衛隊初の統合任務部隊 (JTF) 司令官として陣頭指揮に当たり、再三マスコミ等に取り上げられましたので、ご記憶に新しい事かと存じます。

ところが陸幕長表敬四日後の二十三日、産経新聞に 君塚陸幕長退任」及後任陸幕長起用の記事が突然掲載され、関係者一同に衝撃が走りました。

古より 大事はひとごと」と云われますので何が起きても驚きませんが、更にそれから四日後の二十七日、上京中私の携帯が鳴り響き 陸幕長退任は白紙」との怪情報も飛び交い、ニュースの真偽の程は全く判りません。笑)

閑話休題、同二十三日は宮崎県隊友会と、宮自父兄会宮崎支部総会が同日開催され、掛け持ちで出席させて頂いたところです。

隊友会は藤井会長の麾下、肅々と運営されており和氣藹々の懇親会で毎回盛り上がるのですが、宮崎支部父兄会の不協和音は部内外で仄聞致します。

子弟が現役自衛官として国防に任じているときに、銃後の守りたる父兄会が混乱しているようでは、現代の防人達も任務に集中出来る筈がありません。

鳩山元首相がまるで中国の手先の如き発言を繰り返すのも、国論を分断し、混乱に乗じて尖閣や沖繩を手中に収めんとする輩の思惑通りなのでしょう。

意見の相克が有ることは人間の性として当然ですが、 国体・国益」と言う日本人として普遍的の価値観に依拠すれば、多種多様な意見自体が不思議です。

沖繩マスコミの偏向性については各界から様々な指摘がありますので、先月より石垣市の 「八重山新報」を購読し始めたところ、公正中立な視点に基づく健全な紙面構成に大変驚き、且つ大いに安堵致しました。

我々が見聞するニュースの殆どは、沖繩タイムスや琉球新報等のメディアが発信の記事であり、米軍基地反対闘争と云う誰もノーと言えない命題を掲げ、

日米離間を目論んだ上で、中国との接近を計ると云う遠謀深慮が窺えます。僅か六千部の八重山新報であります、沖繩県民の良識が凝縮されており、

大田實海軍中将が 沖繩県民斯く戦えり。県民に対し後世に特別のご高配を賜らんことを」と海軍次官へ打電し、身はたとへ沖繩の辺に朽ちることも守り

継ぐべし大和島根は」で辞世された心情等を、充分に忖度されている様です。同紙によれば二十七日、与那国町と防衛省は町有地二十一畝の陸上自衛隊

沿岸監視部隊用地の賃貸契約を締結し、二十七年配完了を目指すとの事です、八月の町長選挙結果如何では白紙の可能性もあり予断を許しません。

会員諸兄も人口一千六百人、国境の島の町長選挙に大いなる関心を寄せて、同島の防衛協会同志等と連携し、駐屯地完成までご協力を賜れば幸いです。

結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

平成 二十五年 七月 一日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部 支部長 小倉 和彦

